

鳥取県の図書館ネットワーク - 鳥取大学附属図書館と公共図書館の連携 -

本稿は、平成 19 年度公立大学協会図書館協議会研修会において、報告した事例報告をまとめたものです。

1. 県内図書館との連携経緯

鳥取県の図書館事情は、大学関係は鳥取大学をはじめ5館、公共図書館は県立図書館と県内4市を中心に24館であり、他県にくらべてきわめて少ない。その図書館同士が一本につながる取組を開始した。

まず平成13年より、大学間同士の連携を深めるため大学3校と高専を含めた「鳥取県大学図書館等協議会」を設立した。平成14年には、公共図書館との連携を開始し、県立図書館と相互協力協定を結び、平成17年度には鳥取市立中央図書館、米子市立図書館、平成18年度には倉吉市立図書館、境港市民図書館、南部町立図書館と相互協力協定を結んだ。県と4市の図書館連携が可能となり県内図書館のネットワークが充実した。この背景には、県立図書館のしっかりした物流システムによる、東部、中部、西部の公共図書館や高等学校への配送が可能であることが大きな要因である。

2. 公共図書館との連携状況

鳥取県立図書館との連携

本学の構成員が県立図書館の資料を本学カウンターで受取、返却ができる。県立図書館には本学で所蔵の少ない一般書が多く所蔵されているため、利用が年々増加している。返却も専用返却ボックスを設置することにより、学生の期限内返却率が高められた。医学図書館には協力用図書として300冊(3ヶ月毎)を借用し、利用者から好評を得ている。また平成19年度より、中央館において留学生サービスの充実のために、県立図書館の環日本海資料(中国語、韓国語資料)を100冊(3ヶ月毎)を借用することとしている。

鳥取市立中央図書館との連携

本学の構成員が鳥取市立図書館のカード番号でホームページから予約を行い、受取先を「鳥取大学図書館」とすれば、本学図書館カウンターで本を受け取る仕組みとし、返却も本学でできるようにした。

米子市立図書館との連携

医学図書館と連携し、協力用図書100冊(3ヶ月毎)を借用して利用者に提供している。附属病院院内図書館への団体貸出サービスも受けており、入院患者へのサービスも充実した。

倉吉市立図書館との連携

中央館に協力用図書100冊(3ヶ月毎)を借用して利用者に提供している。

境港市民図書館との連携

医学図書館と連携し、協力用図書50冊(3ヶ月毎)を借用して利用者に提供している。

南部町立図書館との連携

医学図書館と連携し、協力用図書50冊(3ヶ月毎)を借用して利用者に提供している。

鳥取大学附属図書館からの貸出

公共図書館への貸出は、平成17年度までは10冊程度の受付であったが、平成18年度は約130冊に増え、連携した効果によるところが大きい。大学に足が運べない遠方の町立図書館からの依頼も増加した。

3. 講演会、講習会の連携

講演会、講習会の連携も各図書館と実施しており、平成17年から18年にかけて14回開催した。これらの開催にあたっては、館員同士が企画から検討し、ポスター作成や報道機関等への広報も行っている。公共図書館からのPRは効果的で、いつも会場一杯の参加者となっている。大学内で開催していた時に比べ会場も広く、一般市民の方の参加も増加した。また、研修会も3回開催し、「パワーポイント入門」「ホームページ作成」講習会を本学教員と図書館職員が講師、補助者となって開催し、一般市民か

らの参加申し込みが多く、参加者からは「たいへんよかった」「次回もやってほしい」との声が多かった。平成19年度も公開講座としての講習会や県看護協会の研修会など実施する予定である。大学の最新のパソコン環境を提供することは公共図書館も関心が大きい。

4. 館種をこえた連携

平成17年度から鳥取大学、鳥取環境大学、県立図書館、鳥取市立図書館の実務者で、「鳥取地区図書館実務者連絡会議」を開催している。より現実的な協力連携を協議し、現在その成果として次の連携協力が実現した。

鳥取大学附属図書館と鳥取環境大学図書館との現物貸借送料の無料化

平成18年1月より鳥取市立図書館の配送システム（月、水、金のサイクルで配送）を利用した両大学間の現物貸借送料の無料化が実現した。

高等学校図書室への資料貸出

鳥取県は2004年度までに正規の職員である常勤司書を全日制の県立高校全校に配置した。このことにより、高校生のニーズに合った推薦図書の展示や県立図書館からの借り入れなどが積極的に行われ、高校での図書貸出冊数が倍増している。このような状況から、大学の蔵書も県立図書館の配送システムを利用して平成18年4月より鳥取県東部地区高等学校から本学資料の貸出サービスを実施し、平成19年4月から全県の高等学校へ貸出サービスを実施した。

短期相互職場体験研修

館種の異なる図書館で相互に職場体験研修を実施することにより、互いの職場の業務を理解し、さらなる連携強化に結びつけたいと考え、平成18年度から県立図書館と本学中央図書館間で5日間程度の相互職場体験研修を実施した。それぞれの図書館の内容が理解でき、また、実務者レベルでの人的交流が図れ、レファレンスなどではとてもしやすくなったことも報告されている。また、上記「環日本海資料」の提供も参加職員からの提案がきっかけで実現した。平成19年度には医学図書館で実施する予定である。県立図書館では「闘病記文庫」など医療情報の提供を展開しており、医学図書館への研修は大きなメリットがあると考えられる。

5. 図書館ネットワークの必要性と今後の課題

本学は鳥取県東部地区に中央館、西部地区に医学図書館があり、その立地条件がそれぞれの地区をとりまとめるには好都合で、近隣の大学、公共図書館との連携強化に繋がっている。つまり、互いの館が近隣に位置し、各図書館担当者がまめに双方の館を訪れ、協議を重ねることができる環境にあることが重要なポイントである。各図書館の人的ネットワークが機能することにより、それぞれの特色を生かした新しい活動を展開している。さらに重要なネットワークは、県立図書館、鳥取市立図書館が有している物流ネットワークである。両図書館が有するこの物流ネットワークの存在が連携強化に大きな役割を果たしている。今後も物流ネットワークを利用して実績を重ねることにより、物流ネットワークの存在をアピールすることが重要である。図書館ネットワークを強固にするためには、各図書館との取り組みの継続性が不可欠である。

大学図書館側が地域に踏み込み、地域の図書館と一体となってサービスを展開することは、鳥取県が目指している「知の地域作り」を推し進める重要な地域貢献となる。

